アメリカで見つけた様々なデザイン

河瀬　風吹（大学２年）

８月５日、ロサンゼルス国際空港の上空から私が見ていたものは道や家がどのように構成されているか、日本との違いは何かであった。なぜ、このようなことを考えていたかというと、この派遣の目的の１つとして新たなデザインを発見することをあげていたからである。私は中学・高校と美術系の学校に通っていたため、デザインにとても興味がある。このデザインには、モノの形のほかに色の使い方や暮らし方、公共の場のつくり、ルールなど多くのものが含まれる。そんな私が 19 日という期間で見つけたデザインを３つの側面から紹介する。

１つ目は、公共の場におけるデザインである。大きく違うと感じた点は、ゴミの扱い方である。公園やビーチ、道路上の至る所にごみ箱が設置されており、その多くが分別の必要がないものであった。一方で、訪れた水族館では細かく分別するよういくつものごみ箱が並んでいた。このように多くのごみ箱が設置されているためか、街中でポイ捨てされているごみが少ないように感じた。また、日本と似ているが少し違うと感じたものは、トイレのマークである。アメリカでは写真のように人型ピクトグラムに加え、丸と三角形を合わせ、男女を表しており、共用トイレの場合は丸と三角が重なったデザインであった。ピクトグラムを用いることは日本と同じであるが、日本では色で男女を表すことが多いだろう。ジェンダーフリーの声が大きくなっている今日では、アメリカの方が柔軟なデザインを採用しているように感じた。

２つ目は、町のデザインである。車で街中を走っていて気が付くのは、建物が全体的に低いこと、車道の幅が広いこと、直線的な道であることである。多くの戸建て住宅は１階建てであり、たまに２階建ての家を見ることができた。私が特に面白いと感じた住宅は、１つの家に２つ玄関がついている家である。このような住宅の場合、日本では２世帯住宅で、家族とその祖父母のように、身内同士が暮らしているだろう。しかし、その家にはまったく面識のない人々が暮らしているそうだ。もちろん、アパートのように完全に区切られているが、一見、同じ家に全く知らない人が住んでいると考えてしまい不思議に感じた。車道の幅が広いことや車道が多いのは車を使う人が多く、また土地が広いためだと考えられる。

３つ目は、交通規則についてである。最も感心したのは carpool lane の存在だ。car pool とは相乗りのことで、carpool lane は、高速道路上にある２名以上乗車している場合のみに通行できる車線を意味する。車での通勤や通学が一般的であるため、朝や夕方など一定の時間は頻繁に渋滞が起こる。そのためこの車線をつくることで相乗りを推奨している。しかし、相乗りをする人は多くないそうだ。さらに、驚いたのは赤信号であっても右折が可能なことである。日本では、赤信号は例外なく停止しなければならない。そのため、赤信号であっても右折していることに、終始不安を感じていた。これらの規則は上記同様、交通量が多いためだと考える。

以上がこの旅で見つけたデザインである。どれも、文化や生活基準の違いからくるデザインの差異であり、そこから、多くのことを感じその背景についても考え、学ぶことができた。日本にもあるではないかと思われる方もいるだろう。しかし、その批判は心の中でとどめていただきたい。なぜなら、19 年間生きてきた中でたった 19 日というわずかな期間で見つけたのが上記であるからだ。日本で生活していたら、きっとここまで考えることはできなかっただろう。

最後に、このプログラムに関わっている TSCA の皆様、KIRA の皆様、ホストファミリーの方々、派遣生、家族、全ての皆様に感謝します。この貴重な経験を活かし学校や学外、社会で活動していきます。